



# 確かな学力の向上をめざして【9月】

## 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

何のために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うのか？

⇒ **これからの社会で生きていく子どもたちに必要な力（育成をめざす資質・能力）を育成するため**

「何ができるようになるか」という子どもたちに必要な資質・能力を育成するため、子どもたちがどのように学ぶのか、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業を見直すことが求められています。



Point

### 授業改善の実践に向けたポイント

学習指導要領を基に、単元の目標を確認しましょう。全国学力・学習状況調査の問題を参考にすることも考えられます。

- ① 児童生徒に「身に付けさせるべき力」を明確にする。
- ② その力を育成するために、児童生徒が「どのように学ぶか」イメージする。
- ③ そのためにどのような手立てが必要か考える。

体育「跳び箱」の授業で、自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育成したい。

どうしたら、振り返る内容を充実させ、次に生かせる気付きに導くことができるだろうか。

「主体的な学び」の視点で考えると…

◆「学習カード」を活用して、今日は何がうまくできて何ができなかったのか、更に上手に跳ぶにはどうすればよいかなどを考え、次に生かす。

#### 具体的な手立て（例）

- ・自分の学びの過程を蓄積し、成長を確かめられるようにする。
- ・友達からの視点を取り入れられるようにする。

理科「物の溶け方」の授業で、周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想を生む力を育成したい。

どうしたら、グループ間の議論を深め、様々な視点で考えを深めさせられるだろうか。

「対話的な学び」の視点で考えると…

◆「水に溶けた食塩のゆくえ」について、グループに分かれて、蒸発させる・重さを測るなど、様々な方法で調べ、考えた結果をグループ間で共有する。

#### 具体的な手立て（例）

- ・「こうなるはずだ」という結果の見通しをもって実験を行うようにする。
- ・実験の結果から考えたことの妥当性を検討する場を設定する。



「何ができるようになるか」というゴールを明確にして、そのために、どのように学ぶか、どんな手立てが必要かを考えていくことが大切なんだね。

